

北海之光

7月号 北海道教区報

わたしがここにおります
 わたしを遣わしてください
 イザヤ書6章8節

発行所 北海の光社
 001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
 日本聖公会北海道教区事務所
 電話 011-717-8181
 F A X 011-736-8377
 E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp
 http://www.nssk-hokkaido.jp
 発行人 植松 誠

あなたの「ここ」から

札幌キリスト教会牧師・有珠聖公会管理牧師
 司祭 ペテロ 大町 信也

今年も、一年の折り返し地点を過ぎました。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」とこの聖句をいただいて既に半年の歩みをして来ました。この聖句を、我が家で、教会の各所で、又お訪ねしたお宅や病床で見るとき、とりわけ「ここにおります」という言葉が心にとまります。様々な「ここ」に出会うからです。それは、空間的な場という事に留まらず、人生における様々な時や状況の「ここ」です。

聖書を開きますと、人を創られた神様から人が最初に問いかける言葉は「どこにいるのか」(創世記三章九節)です。旧約聖書の創世記三章は、エデンの園でのアダムとエバの物語です。神様が食べてはならないと言った木の実を、蛇から誘惑を受けアダムと女は、食べてしまいま

す。そして彼らは、主なる神が園の中を歩く音を聞き、神の顔を避けて園の木の間に隠れます。そんな二人を「どこにいるのか」と神は呼ばれます。人間に向けられたこの神様からの最初の問いは、誰もがその生涯にわたり、問われ自らも問い続ける根源的な問い「どこにいるのか」ではないでしょうか。アダムはこのように答えています。「恐ろしくなり隠れております。」アダムとエバにとって「ここ」という場は、不安や恐れの中で、そっと身を隠す場となりました。

一方、福音書では、不安や恐れの中にいる者たちの「ここ」にイエス様は近づき問いかけられます。徴税人サアカイには「なぜ今、あなたはイチヂク桑の木の中に隠れているのか」と、姦淫の女には「なぜ今、あなたは人々の面前で広場に引き出されているのか」と、三八年間も病気で苦しんでいる男には「なぜ、あなたはベトサダの池のほとりで身を横たえ続けているのか」と、ヤコブの井戸の傍らでは「なぜ今、あなたはこんな真昼に一人で井戸の水を汲みに来なければならぬのか」と、一二年間も出血に苦しむ女には「なぜ今、あなたは群衆の後ろから私に近づき衣の裾に触ったのか」と……。

そして、イエス様は、癒しを与え、彼らの心の最も深いところにある願いをかなえてくださいました。イエス様は、「なぜ今、私はここにいるのか」という事さえ判らなくなる程の、痛みや苦しみ、悲しみや不安や混乱の中にいる一人一人の「ここ」という場に、近づき一緒に身を置き、ご自身の命の内に招いて下さいます。

「どこにいるのか」という問いは、人間に向けられた根源的な問いと申しましたが、自問自答を繰り返すだけでは答えを発見できないが故に、永遠の問いのように思えます。しかし、イエス様がそこに立って下さる時、今いる場がどこであり、どのような意味を持

つ場であるかを、識ることができません。イエス様を、自分が今いる「ここ」にお迎えしたならば、イエス様と出合い癒しを受けた人々と同様に、その場が暗い行き止まりではなく、新たな命の出発点となる事を、身に感じる事ができるのではないのでしょうか。

私たちの「ここ」は、変わり映えせず、ありきたりであり、時には自分でも認めたくない惨めな場所でもありますが、そんな「ここ」にイエス様がお立ちになるという事は、他でもない今いる「ここ」を用いて、神様は救いのご計画の出発点として下さるという事です。かつて失意の中にあるモーセは、燃える芝の中から神の声を聴き、履物を脱いでそこに立ちました。そこが聖なる場所となつたからです。私たちも、イエス様が私たちの「ここ」を聖なる場として下さるので、履物を脱いで「ここから」イエス様と共に歩んで行きましょう。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」



—心の窓をひらいて—

福音と私 (二一八)



— 今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか —

聖マーガレット教会信徒

セシリヤ 折笠 美穂



【好きな聖句】

「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。」

(マタイによる福音書六章二六節)

この聖句が基になった聖歌三四四番「空の鳥は小さくても」こどもから大人までよく知られているこの聖歌は私の人生の中で色々な関わりがあったことを思い出しました。

私が洗礼を受けたのは高い時でした。それまでは母に連れられ時々教会に来てなんとなく礼拝に出ていました。が、中三の頃から奏楽の奉仕

を始め、北星女子高に入学し

毎朝聖書を読み賛美歌を歌うという生活を通し決心しました。クラスにクリスチャン

は二人だけでしたが、その一人の私は聖歌しか知らなかった

ので時々違う歌詞を大きな声で歌っていました。そんな

クラスですから毎朝歌うのは三四四番の他三、四曲の賛美

歌で同じ曲が何日も続くこともあり

ました。その頃は何も考えずに歌っていた曲でした。

大学卒業後に札幌に戻り奏楽奉仕を再開し、日曜学校のお手伝いも始めました。とはいえ、こどもの頃日曜学校に通って

いない私は先生というより大きな生徒のようで、他の先生方や教会の皆さんに支えられて

やっているような具合

でした。その頃、日曜学校では年に二回程病床訪問を行い、聖歌を一曲歌って帰って

きました。曲はこどもたちが好きな三四四番です。同室の方に快く了承頂きみんなで歌います。手拍子をする方、一緒に歌う方などそれぞれですが、いつも目にいっぱい涙を浮かべて聴いてくださるお

じいさんがいました。歌が終わると涙を流しながら何度も「ありがと、ありがと」と言

って頂きました。帰り際にこどもたちが声をかけたり握手

をして病室を出ますが、情けないことに私はおじいさんが静かに歌を聴いている姿

や泣いている姿を目の当たりにしてちゃんと声もかけられ

ず、「聴いて頂きありがとございます」の言葉が精一杯

でしたが、おじいさんの耳には聞こえていなかったかも知

れません。この聖歌に少し苦しい思い出ができました。

私が四〇歳になった頃、病気を患い不安な日々を過ごしていました。ある時テレビから

流れてきた「涙そうそう」を口ずさんでいると、側に居

た夫が急に泣き出し、つい私

も一緒に泣いていました。こんな不安定な気持ちの中での

検査で緊張している私に「具合が悪くなったら言ってく

さい」の一言で心臓の鼓動は速くなり、息苦しくただ焦

中、時間だけが過ぎていきま

した。ふとその時頭の中に浮かんだのが三四四番で

した。「空の鳥は小さくてもお守りなさる神さま」。する

と息苦しさ収まり肩の力が抜け、落ち着きました。それ

からは他の聖歌や好きな歌を口ずさんでいました。その後

お見舞いに当時マーガレット教会の牧師をされていた大町

司祭からお祈りが書いてあるカードを頂きました。カード

にはイエス様が大きく手を広げ優しく微笑み周りを鳥たち

が飛んでいる絵が描かれていました。その絵を見て緊張と

不安の中にいた私に聖歌を通して共に居てくださった神の

存在、夫や両親の支えに改めて気づかされ感謝でした。

今私は保育の専門学校で音楽を教えています。この時期、学生は保育園や幼稚園に

実習に行きます。実習先から課題が渡され、キリスト教系

の園に行く学生にはこども賛美歌や黙想の曲が渡されま

す。三四四番も必ず出される曲の一つですが、一年程ピアノ

を習った学生には聖歌の伴奏は難しく、弾くだけで精一杯

です。まして聞いたこともない聖歌は歌を覚えることか

ら始まりません。そんな時には一緒に歌って「あなたの事も

見守っているよと歌っている曲だよ。だから頑張っておいで！」と伝えるように心がけて

います。

昔から何気なく歌っていた曲ですがシンプルなメッセー

ジに助けられ、勇気をももらって

いました。日常に追われ真面目な信仰生活を送っているとは言えませんが、いつも神さまがそなえてくださった恵みと見守りのうちにいることを忘れずに感じていたいです。日曜日には礼拝堂に響き渡る心からの賛美の歌声を聴きながら共に礼拝する喜び、オルガンを弾ける喜びに感謝して！



常置委員会報告
第八回 六月二〇日

《協議事項》

一、教区修養会講師の件
・教区修養会に相澤牧人司祭
(横浜教区) を講師としてお

招きする事を承認した。
二、植松主教海外出張の件
・米国聖公会総会(テキサス
州オースチン市) への出張を
承認した。

・道北四教会合同礼拝のプロ
グラム費用の一部についての
申請を承認した。
四、稚内聖公会・厚岸聖オー
ガスチン教会・旧帯広双葉幼
稚園の件
・現況について報告を受け、

継続審議とした。
五、聖職候補生の任期の件
・現任の聖職候補生二名の執
事志願までに要する期間につ
いて協議した。
六、バンクーバー青年交流に
関する件
・NCC主催の青年交流プロ
グラムに、直井岳さん(札幌
聖ミカエル教会) を推薦し、
参加費一部について補助する
こととした。



主教室より

六月五日からの三日間、
東京で日本聖公会総会が開
かれ、北海道からも私と聖
職・信徒代議員二名ずつが
出席し、様々な議案につい
て討議しました。この総会
で私は首座主教として選出
され、新たに二年の任期が
始まりしました。この二年
の間、札幌―東京間を往復
する生活は、若い時よりも
かくとして、最近では年齢的
なものか、正直なところ疲
れを感じるようになってき
ました。各教会に巡回のた
び、信徒の方々からの私の
体を気遣ってくださるお気
持ちに支えられ、なんとか
やってこられたとつくづく
思います。

牧師は教会という組織を

守りながら、一人ひとりの信徒に向き合
います。主教も教区
という組織を守りながら聖
職信徒と向き合います。そ
して首座主教は他教区の主
教と共に、管区という組織
を守りながら、役目を果た
していきます。出来る限り、
教区の一人ひとりの聖職信
徒と向き合いたいと思いな
がらも、管区としての機能
が滞らないことを優先して
しまい、教区に重荷を負わ
せることになったというの
も事実でしょう。

北海道教区の代議員から
出た議案「首座主教の任期
は三期六年までとする」は、
そのような私の状況を慮つ
てのものでした。否決され
ましたが、私は、そのよう
に配慮してくださった代議
員の皆さんに心から感謝し

主教 ナタナエル 植松 誠

二〇一八年北海道教区

ユース・アッセンブリー

in小樽聖公会

「わたしがわたしである、
ということ」

とことごとく

〇日時 八月九日(木) 〇
〇一日(日)

〇参加対象 小学五年、
大学卒業年齢まで

〇申込締切 七月末

〇参加費 五〇〇〇円

〇主催 宣教活動推進部
青年グループ

〇問い合わせ 小樽聖公会
(永谷司祭
☎〇一三四(二三)三三六八

堅信式受領
おめでとう

旭川聖マルコ教会
アイリーン 平澤 ゆう子
六月一〇日

十 教区逝去教役者
記念聖餐式

八月八日(水)
午前一〇時三〇分
於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

- 執事 高津 守三郎 一九〇九年八月二日
- 司祭 林 兼治 一九三八年八月四日
- 執事 高橋 俊夫 二〇一〇年八月四日
- 伝道師 高野 万次郎 一九三五年八月五日
- 司祭 上田 貞雄 二〇〇六年八月七日
- 伝道師 清川 成七 一九五八年八月一〇日
- 伝道師 石原 園井 一九一五年八月一日
- 司祭 村瀬 敬輔 二〇〇九年八月二七日
- 執事 高橋 俊六 一九四五年八月三〇日



▽旭川聖マルコ教会

なかなか暖かくはなりません、園庭の草はぐんぐん伸びる季節となりました。

一〇日は、主教巡回日、平澤ゆう子さんの洗礼堅信式が行われ、嬉しい日となりました。一七日は出会いと交わりの日、聖マルコ教会には新札幌聖ニコラス教会から上平更聖職候補生が、奥様やご友人と一緒にいらつしやいました。マルコ食堂は、平均年齢が一気に若返り、にぎやかに過ごしました。二四日は池田千鶴子ハーブコンサートが開催され、こころが静かに元気になる、そんな体験をしました。気がつくとも今年も半分過ぎました。

▽小樽聖公会

六月七日、ヨセフ古川正三さん逝去。九二年の地上でのご生涯でした。葬儀は、寿都町にて行われました。

六月一四〜一六日、小樽水天宮のお祭りに合わせて、教会カフェ・ミニバザー開催。旭川聖マルコ教会に協力いただいた、にんじんケーキは即完売、オルガン演奏や、桑原志保美さんによる馬頭琴ミニコンサートも好評。今年も多くの方が来てくださって盛況のうちに終えることができました。

出会いと交わりの日は、阿部恵子聖職候補生が来てくださり、み言葉の礼拝をお捧げし、愛餐と交わりのひとときをとともにいたしました。

▽新冠聖ニコラシス教会

暑い日が続いていた六月でしたが、ここへきて天候不順な日高地方です。農作物への影響が心配です。

いつもは月に二回の礼拝日ですが、今月は一七日の「出会いと交わりの日」のみの一回だけとなりました。当初は

▽稚内聖公会

小樽聖公会の永谷司祭の予定でしたが、急遽横山司祭にお出でいただくこととなり、由紀子夫人共々お越しく下さいました。横山先生はかつて静内高校で教鞭をとっておられましたので、旧知の間柄です。礼拝後は、一品持ち寄りです。楽しいひと時を過ごしました。

六月二四日、常置委員の津田武典さん、旭川にいられて、稚内の会計処理の状況を見て下さる。当教会の展望について、常置委員をはじめ教区全体の課題にしていきたいことをありがたく思っている。六月の礼拝(二五日)は、

本原満栄さん、與賀田敏子さん、広谷栄子さん、牧師の四人でお捧げした。帰路「イエスの姉妹会」を訪ね歓談。シスターのロザリオさんから『福音宣教』という雑誌を九ヶ月分いただく。なかなか読みごたえがあった。ご希望の方にはお返ししますよ!

▽平取聖公会

不順な天候の続く平取です。六月一七日の「出会いと

交わりの日」は小樽聖公会永谷亮司祭を迎えて、司式・説教をしていただきました。感謝。

一六日に信徒の柳原青子さんが急逝され、葬儀は植松主教が司式・説教、大友・内海両司祭が補式をされました。清川戌七伝道師の孫にあり、クリスチャンの家庭で育った人生を送られました。快活で聡明な方で、地域活動も熱心でお友達の多い方でした。先年ご主人を亡くされ、一人娘の美樹さんが保育園主任として働いておられます。

▽紋別マリヤ教会

六月に入り、曇天と長雨と低温が続く、夏は来ないのかと心配になる日々。

六月三日、植松主教の巡回日で前主日のオホーツク三教会合同礼拝に続いてオホーツクの地を訪問なされました。主に感謝いたします。

一七日、「出会いと交わりの日」で当教会には木村夕子司祭が奉仕なされ、紋別で生活していたことなどの懐かしさを説教の中で交えて、共に

歩んでいることを感じました。この広いオホーツクの地に福音の光が続きますように。

▽有珠聖公会

五月一七日「出会いと交わりの日」に、藤井八郎司祭・直さんご夫妻を、函館よりお迎えしました。有珠聖公会は、藤井先生が若きころ室蘭より、また後に苫小牧より牧会頂きました。当時の懐かしい人々との旧交、近年の新しい顔ぶれとの出会いを温めました。

二四日、植松主教様の巡回を頂きました。礼拝を終えて主教様を囲んで恒例のティータイム。聖マタイ教会から三松さん、ジオパークの関係者、他教派の皆さんと多彩な皆さんと時を忘れて過ごしました。

▽留萌キリスト教会

礼拝堂の照明を修繕し、眩しい程の明るさになりました。

さくら(手芸の会)は紙パンドのかご作りに取り組み、やれ材料を見失ったとか、ど

れの事かわからないとか、気が急いで間違った模様になるとか、とにかく全員そろって珍道中なので笑いが絶えません。六〇八名、平均年齢は後期高齢者に入っていると思われる、会話の楽しい会です。

出会いと交わりの主日には池田司祭がご奉仕くださいました。八年ぶりの再訪に感謝いたします。遠い道のりを、お疲れさまでした。

▽帯広聖公会

今年の教区宣教標語「わたしがここにおります わたしを遣わしてください」の実践として、牧師館と教会の「お留守番」を信徒が交代で務める奉仕が六月スタートしました。午前、午後の二部制で都合の良い時間を申告し、来会者への応接や電話対応のために「誰か」が常駐しております。六月八日幼稚園職員の皆さんとの懇談会開催、キリスト教保育の在り方など話し合いが行われました。一七日の「出会いと交わりの日」は網走より飯野先生ご来訪。松井・永谷両司祭様とはまた違った

「説教」を頂きました。詩人でもある先生直筆のサイン入り詩集を求め「将来のプレミア」を期待する一コマでした。

二〇日松井司祭の提案により「聖歌を歌う会」、三〇日婦人会フリーマーケット参加と多くの聖職、信徒が様々なシーンで「遣わされ」ている六月でした。主に感謝。

▽札幌聖ミカエル教会

六月一日、三〇年以上使用した電子オルガンに代わる新しいオルガン購入を臨時堅信受領者総会にて決議、献金を募りつつ、設置の日を待ちわびています。一七日、出会いと交わりの日はみ言葉の礼拝。信徒の世代交代が進む中、また三年後には宣教七〇周年を迎えることから、教会の草創期の信徒、教役者の信仰に思いを馳せるため、秋江申夫さんの奨励をいただく。教会堂はもうすぐ建築六〇年。ノエミ・レーモンドさんデザインの和紙の張り替えから年代物のドアノブの補修まで、目に見える遺産も大切にしたいと願います。

▽札幌キリスト教会

肌寒い日が続いた六月、米国留学を終え吉野礼さん帰国。一〇日サーバーご奉仕、再会を喜ぶ。一〇日、尾関信朗さん、一七日尾関信邦さん御逝去、魂の平安とご家族の慰めをお祈りいたします。

一七日「み言葉の礼拝」信徒奉事者団の司式、竹花千明さんが自作の絵を用いて和やかに証しをして下さった、感謝。三三、二四日「旅する教会」日本キリスト教団千歳栄光教会にて子どもたちは交流プログラム、大人たちは「ユニニの湯」に宿泊。二四日は、礼拝を共にし、有意義で楽しい旅となった。主に感謝。

▽新札幌聖ニコラス教会

一七日、出会いと交わりの日は旭川聖マルコ教会から広谷司祭を迎え、上平聖職候補生は旭川に。同日、先月逝去された造田姉のご家族が礼拝に出席くださる。また安藤姉の教え子だった方のご息女も訪問くださり嬉しい交わりの日になりました。ようやく冷たい春雨は終

わったかと思いきや蝦夷梅雨の続く暗い天気。各地の悪天候での災害被害を覚え祈っております。

現在は、七月一五日長沼での植松主教を迎えての野外礼拝に向けて準備にいそしんでおります。

▽岩見沢聖十字教会

六月一七日「出会いと交わりの日」は内海司祭の司式・説教。聖歌も同声高らかに賛美。愛餐会も豊かな恵みの一時となり感謝。二月末より施設入所を続けている安藤三名子姉を、池田司祭と婦人達で訪問し祈りと交わり

を。幼稚園は四日、年長組が市内の二園と合同で田植え体験。二二日藻岩山登山。

▽室蘭聖マタイ教会

二二、二四日園庭作業の日とし、在園児卒園児の保護者の方々と先生方とで、購入整備した隣接地に大型遊具を設置する等、更に改良の手が加えられる。園児達の遊びの展開が楽しみです。六月に入ってもストーブをつける日々です。

三日藤井兄によるみ言葉の礼拝。信徒が高齢者のため、教会廻りの除草はシルバーセクターに依頼し、すつきりする。一〇日吉野司祭で聖餐式。式後、教会問答を勉強する。

一七日の出会いと交わりの日函館より藤井司祭、直さんが来られ五〇年振りに聖餐式される。当教会は藤井司祭の時に新築され感慨ひとしお。

二四日植松主教・三千代夫人と共に来られ聖餐式。小林姉、他教会の姉妹も来られ共に祈り感謝の一日でした。

▽今金インマヌエル教会

六月一〇日礼拝。その後、分区婦人会とジャズコンサートについての話し合いが行われました。一三日草刈り作業に五名参加。感謝。一七日出会いと交わりの礼拝には苦小牧より吉野司祭をお迎えしました。いざ礼拝。あららプレーヤーが無い。アカペラの聖歌で無事礼拝を終えて昼食会。平野兄宅の作業所休憩室を借りてのバーベQ大会。来年も開催予定しております。先生をお見送りしてから第二部。

ミニバザーの打ち合わせ、境内整備についての話し合いが遅くまで続きました。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

六月一日寒いなながらも、みごとに育つ雑草に辟易。礼拝後、有志で教会周辺の整備。帰りを急ぐ教友から「お疲れさま」の声に励まされ、もう一頑張り。一七日「出会いと交わりの日」には主教さまが司式をして下さり、頌栄保育園の先生方も交わりに加わりました。愛餐会では厚岸名物の牡蠣弁当と婦人たちのいつもの手作りおもてなしに舌鼓。会食後は主教様による歌唱指導。作者に対する熱い思いを心に留め、三千代夫人のピアノ伴奏に心地よいひと時を過ごせました。感謝です。

厚岸では、佐田さんご家族が教会を見守って下さっている事を感じます。また、保育園では運動会に向けて練習の毎日。元気な声が聞こえます。

▽北見聖ヤコブ教会

地主さんのご好意でお借りしている、隣の空き地や司祭

の車をいつも停めている場所、教会の玄関前、ぶどう棚の下など草が伸び放題だったので二日間かけて草刈をいたしました。

六月一七日(日)の「出会いと交わりの日」では甲斐博

邦司祭がお越しく下さり、司式・説教をしてくださいました。甲斐先生は当教会の牧師もされておりましたので、とても懐かしいお交わりでした。御夫妻で見えられ心より感謝でした。飯野司祭は帯広聖公会でした。

▽深川聖三一教会

六月五日保育園児は花の日にちなみ、ひいらぎ荘訪問、お年寄りの方々と親しく交流す。七日保育園職員会議、主任より「アスペルガー症候群」について指導あり。一〇日春の大掃除と臨時委員会。一七日「出会いと交わりの日」阿部芳克司祭、夫人と参られ、一同親しく交わり歓迎す。甲斐司祭は、北見聖ヤコブ教会へ出向す。一九日道北分区の

教役者が旭川聖マルコ教会で開催され前半、道北四教会協

働礼拝の文書確認が久末集一氏陪席で行われる。二一日木村夕子司祭による礼拝司式説教、甲斐司祭は留萌へ出向、講壇交換の実施です。

▽網走聖ペテロ教会

二日、三月に逝去したクララ和田昭子さんの納骨。式後昭子さんの一番小さな従妹安藤さん「庭の千草」を奉唱。一〇日教会委員会、春の駐車場排水工事の継続審議。一七日出会いと交わりの日、下澤司祭御夫妻をお迎えし、一人一人が思いを語り合う。二三日、瀧口兄の奥様里子さん逝去一五年記念が礼拝堂で行われる。御親族と食事を共にし、お交わりする。三〇日合唱団あばしり団員の、集会室・玄関ワックス掛け奉仕。婦人会の抄読会は、聖公会の教会問答に入る。

▽聖マーガレット教会

六月一日は婦人会主催によるミニバザーを開催。準備作業の為に連日たくさんのお奉仕に感謝、当日は天候にも恵まれ大盛況。収益の中からNPOどさんご海外保健協力会

へ献金をさせていただきまし

た。一七日の『出会いと交わりの日』はみ言葉の礼拝を信徒二六名で行う。

二八日は毎年恒例のニセコ

ワーク、約六百坪の管理地の草刈り作業を一四名の参加者で行い汗を流しました。ニセコモイワにリゾート開発の兆し、土地の有効活用を祈りつつワークを継続したいと願う。

▽苫小牧聖ルカ教会

六月は雨降りの日が多かったように思いますが毎主日元気な様子でお会いできる教友に感謝です。

「出会いと交わりの日」釧路の松井司祭をお迎えして司式説教を頂く。初めてお会いする信徒多し。良き交わりのひと時でした。不定期に行われている歌と祈りの集い礼拝堂で静かな祈りの時をもちました。幼稚園の運動会は連日雨降りでしたが当日は天気になり藤林園長・職員一丸となり日頃の練習の成果に園児の頑張り笑顔に幼子の成長を感謝する。

船員奉仕会不定期に訪船・センターオープンしているが訪れる船員の笑顔が嬉しい。全てが主に感謝。

▽函館聖ヨハネ教会

一日、修復工事安全祈禱式挙行。工事関係者とともに九月までの見守りを祈る。足場と幕に囲まれた聖堂内は薄暗いが、今しか味わえない格別の雰囲気。工事中も観光の方々に聖堂は解放され、修学旅行生はじめ多くの方々が来訪中。一七日「出会いと交わりの日」大町司祭ご夫妻をお迎えする。前夜歓迎交流会では、認知症予防運動と大町先生クイズで盛り上がる。二四日「地域と共に歩む教会」の実現企画コンサート(ジャズ)。百名を超す人々を迎え熱気にあふれる。三〇日、オーブンガーデン。近隣の方々と交流。皆様のお祈りとお支えに、感謝の日々。

